**わたしのあゆみたいみち**

僕が歩みたい道は、農民として農場を守っていく道です。そうありたいと思っています。その暮らし、営みの中でその暮らしが平和な道に続くことを願います。

僕は十か月間、坂本家という大きなくくりの中で暮らしてきました。今、思えばよかったです。楽しかったです。豊かでした。

僕がそこにいて自分が気持ちよく感じていたのは、家族の、一言でいうのなら絆です。あたたかさです。家族というつながりに僕は驚きました。自分もこうやって暮らしてきた、育てられてきた、生かされてきた、という感謝の気持ちです。自分が今までなぜ生きてこられたのか、が身に染みてわかる時間でした。親に感謝しています。僕の周りにいてかかわってくださっている人たちに感謝しています。自分だけでは生きてはいない。心に響きました。家族というものの意味が深く刺さった時間でした。

専攻科というものは僕が労働をする代わりに、寝るところと食べるものをいただきます。僕は実際、労働をしました。僕にできることを精一杯やっていました。でも生活していく中で、自分がしていることはこの農場が続いていくためのピースになっていること、また、平和な道に続いていくために働いているのだと思うようになりました。ここで働いた感覚は不思議です。何のために働いているのか、食べ物をおいしくいただくためです。安心して寝させてもらうためです。でもそれだけではありませんでした。僕が働くことで対価をもらいたいのではなく、進む道の先にあるものをとらえる不安を感じながら、平和につながるであろうと思って働いていました。

平和とは何かと聞かれると少し難しいのでひとつエピソードを紹介すると、ほかの農家さんのところに働きに行ったときに、一緒に働いたのだからご飯をたべていきなよ、と言ってもらったことがありました。僕はそこで軽く言えるその農家さんたちの懐の深さにいいものを感じました。専攻科生活なので食事を出してくれますが、そのような心持ちを持てるかといわれると考えてしまいます。農家さん側からすると一緒に食べるのが当たり前というスタンスです。それがあたりまえでなかった僕はそれがいいことであると気づきます。だからそこら辺に転がっているいいことってたくさんあると思います。気づくか気づかないかだけなのかもしれません。エピソードからすると、はたまたふつうの話ですがこれを続けていくこと、積み重ねていくこと、そこに重きを置くことで平和ってあるのではないのかなと感じました。

平和というのも大きなキーワードになりましたが、家族のための労働であったとも言えます。それもでかいです。家族のため、生きていくため、生き続けるため。僕はこの感覚をあじあわせてもらいました。半分は子守で、半分は研修生で、半分は子供で、いろんな立場でその場にいさせてもらいました。そのいろんな立場での感じ方は様々です。でも家族のために働いているというものが僕にとては尊いものでした。自分の平和を物理的に描ける農場を持つことは夢です。でもそのマインドを持つことは自由です。自由に持たせてもらっていたんだなと今、思います。

僕はおそらくいろんな愛をもらいました。気づいていることはほんの少し。例えば親の、子に対する愛というのがなんなのか気づいた気がするからです。

見えないものに気づくこと。それって大事なことだと思います。なぜならばそのとき受けた愛を与えてくれた人がいる間に返したいって思うからです。今、お世話になった人に感謝しています。でも僕はどんな思いで僕を受け入れてくださったのかはかり知れません。考えてもわからない不毛なものです。感謝はしていますがどんな愛に感謝しているのだろうとわかんなくなります。でも、愛を受けたことが分かっているから感謝できると思います。その確信が次の自分への足場になっていると感じています。たくさんいただいたものが次の日気づいたり３年後だったり、タイミングはまちまちです。でもそうやってどんどん自分の足元を踏み固めてもらえるものが増えていく実感はかけがえのないものです。気づきたいから明日も生きたいのだと思います。

最後に、僕は農民として農場を守っていく道を歩みたい。その先が平和な道であることを願っています。

2022.2.12

自分がここで愛という表現に置き換えたのはその言葉が当てはまっちゃうのかーとただ思ったんだよ。。

返す人はくれた人でなくてもいい